



特集

特集1:事業を通じた社会課題の解決

特集2:多様な人財の活躍

特集3:気候変動問題への対応(TCFD)

「サステナビリティ貢献製品」を通じて、 サステナブルな社会の実現に貢献

積水樹脂グループは、これまでもCSV(共有価値の創造)に注力し、社会的課題の解決と持続可能な社会への貢献に取り組んできました。SDGsで提唱されている重要課題の解決と持続可能な社会への貢献を通じて、更なる企業価値の向上を図るべく、2021年度より当社グループの基盤事業である『安全・安心・快適な暮らし』『防災・減災』『環境対策』を更に拡張させるとともに、未来に向けた新たな基盤を構築しSDGsの目標達成に貢献していくため、持続可能な社会実現に貢献できる製品・サービスを「サステナビリティ貢献製品」と位置づけ事業活動を推進しています。

「サステナビリティ貢献製品」とは

従来の地球環境調和型製品の貢献分野に、社会課題の解決につながる貢献分野を加えた6つの分野で基準を設け、これら基準を満たす製品を「サステナビリティ貢献製品」と位置付けています。

●当社従来の地球環境調和型製品
(環境負荷の低減につながる製品)

- 「脱炭素」
- 「脱プラスチック」
- 「循環型社会構築」
- 「生物多様性・生態系保全」

●社会課題の解決につながる製品

- 「防災・減災、国土強靱化」
- 「安全・安心・快適な道・まち・労働環境づくり」

貢献分野と内容		貢献可能なSDGs目標
① 防災・減災、国土強靱化	インフラ付帯施設の長寿命化 自然災害への対応力・耐久性の向上	  
② 安全・安心・快適な道・まち・労働環境づくり	交通事故・渋滞対策・自動運転・バリアフリー・防犯対策への対応 労働環境の安全性向上	  
③ 脱炭素	再生可能エネルギーの活用 強化・アップデート	
④ 脱プラスチック	プラスチック使用量の削減 プラスチック代替材料の探索・開発	
⑤ 循環型社会構築	リサイクル・リユースのスキーム構築	
⑥ 生物多様性・生態系保全	海洋汚染の防止 生態系の保全	 

「サステナビリティ貢献製品」の主な認定項目と認定フロー

「サステナビリティ貢献製品」の認定にあたっては、「SJCグループサステナビリティ推進委員会」の下部組織である「開発部会」メンバーによる審査を経て、「SJCグループサステナビリティ推進委員会」で報告・認定しています。特にサステナビリティ貢献度合いや技術新規性など、総合的に優れている製品については、「サステナビリティ貢献製品 EX」として認定し、取締役会へ報告しています。



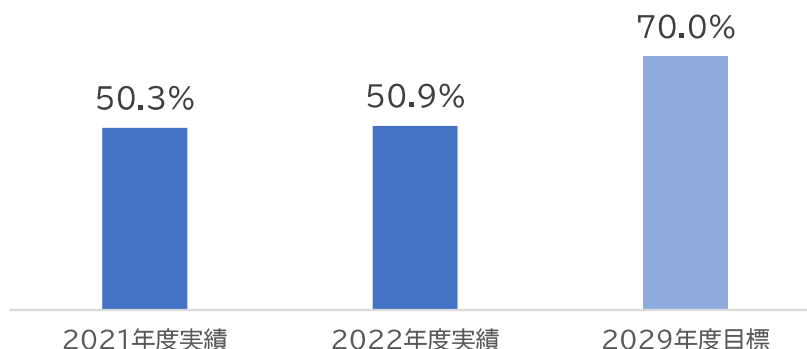
貢献分野	主な認定項目
① 防災・減災、国土強靱化	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害による被害を緩和 遮熱・温度上昇抑制機能 既設製品の寿命延長に貢献
② 安全・安心・快適な道・まち・労働環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ドライバーへの視線誘導などによる交通事故抑制 安全・快適な労働環境づくりに貢献 騒音・光害・電波等の低減機能、監視・警告機能
③ 脱炭素	<ul style="list-style-type: none"> 太陽電池、風力、水力、地熱、圧力等クリーンエネルギーを採用 製品使用時のエネルギー使用効率を改善
④ 脱プラスチック	<ul style="list-style-type: none"> バイオマス由来原材料を活用 プラスチックの使用量を従来品より大幅に削減
⑤ 循環型社会構築	<ul style="list-style-type: none"> 使用済み製品を回収しリサイクルするシステム 再生原料を使用 原材料使用量の削減
⑥ 生物多様性・生態系保全	<ul style="list-style-type: none"> 海洋・里山汚染低減機能 海洋、里山生態系の保全に貢献

「サステナビリティ貢献製品」の目標

2021年8月に策定した「積水樹脂グループ新中期経営計画」の中でサステナビリティ目標として「サステナビリティ貢献製品売上高比率50%(2023年度)」を設定し、積水樹脂グループ全体で目標達成に向けて取り組んでいます。2022年度の「サステナビリティ貢献製品売上比率」は50.9%でした。

「サステナビリティ貢献製品」目標と実績

項目	2023年度目標	2029年度目標 (2030年3月期)
サステナビリティ 貢献製品売上高比	売上高比 50%	売上高比 70%



サステナビリティ貢献製品EXのご紹介

RFID誤認識を解決する「透明電波吸収・遮蔽パネル」

貢献
分野

② 安全・安心・快適な道・まち・労働環境づくり



電波を用いて対象物の電子タグの情報を非接触で読み取るRFIDシステムは、電子タグを読み取るための電波が、壁など周りのものに反射して想定外のところへ届くことにより、対象物の電子タグ以外のデータを誤認識してしまうという課題がありました。透明電波吸収・遮蔽パネルは、電波を吸収したり遮蔽することで電波の反射を防ぎ、RFIDシステムの課題である誤認識を解決し、工場や物流施設の省人・省力化に貢献します。



透明電波吸収・遮蔽パネル

<電子タグの読み取り状況を比較>



スキャナの電波で読み取り対象物の電子タグを読み取る



読み取り対象の電子タグだけを正確に読み取り

自然エネルギー(太陽電池)でドライバーに24時間注意喚起する「同期式自発光視線誘導標」

貢献
分野

- ① 防災・減災、国土強靱化
- ② 安全・安心・快適な道・まち・労働環境づくり
- ⑤ 循環型社会構築



従来製品と比べて広範囲面の発光でより明るく、24時間ドライバーに道路線形を注意喚起し、安全な走行をサポートする視線誘導標です。オリジナル省エネ無線ユニットを内蔵することで、配線工事不要で様々な同期発光が可能です。蓄電池は、長寿命ニッケル水素電池を採用することで、電池交換頻度を少なくできることに加えて、自然エネルギー(太陽電池)を活用したオリジナル省エネ設計により、環境負荷低減に寄与します。



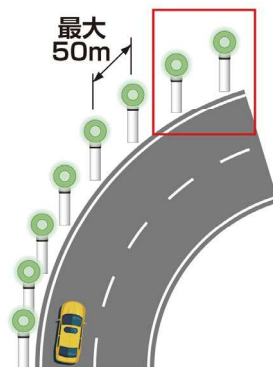
ナビリード



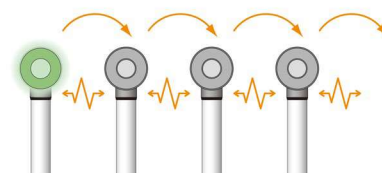
サンデーⅢ



降雪時の発光の様子



同時発光で線形を明示化し、視線誘導効果を向上



数珠つなぎで信号を伝達

隣接した機器同士の無線通信により信号を伝達させることで何基でも接続可能です。

※設置間隔:最大50m(高速道路)

サステナビリティ貢献製品EXのご紹介

生活道路や通学路の安全対策
「ポールコーンCITYR/ポールコーンガイドR」

- 貢献分野 ② 安全・安心・快適な道・まち・労働環境づくり
⑤ 循環型社会構築



生活道路や通学路の交通事故対策として、ドライバーや歩行者に対し視線誘導、注意喚起する交通安全対策製品です。環境に合わせて設置形式をお選びいただけるので、道路、縁石、駐車場など様々な場所に設置できます。また、ポール部分は簡単に交換可能なので、少ない補修部材で長期間ご使用いただけます。安全・安心・快適な道・まちづくりを通して、サステナブルな社会の実現に貢献します。



大阪府

交通量が多い道路の安全対策として設置されました。



長野県

反射シートに文字とビクトでドライバーに注意を促します。

高耐久&メンテナンス性の高さで省力化に寄与
「北海道新幹線 吊り下げ式防音壁」

- 貢献分野 ① 防災・減災、国土強靱化
② 安全・安心・快適な道・まち・労働環境づくり



北海道新幹線の高架橋は冬季の積雪対策として床面に設けた開口部から高架橋下に雪を落とす構造となっており、その開口部からの列車走行騒音を低減する目的で防音壁が設置されています。振動や凍結・融解に関する促進耐久性試験を繰り返し実施することにより開発された製品で、高い耐久性能が評価されています。また、施工性やメンテナンス性を考慮した構造のため、省力化にも寄与します。



試験設置された吸音板



サステナビリティ貢献製品EXのご紹介

対面不要でいつでも荷物の受取可能 「集合住宅向け宅配ボックス」

貢献分野 ② 安全・安心・快適な道・まち・労働環境づくり
⑤ 循環型社会構築



近年大きな社会問題となっている「宅配便の再配達」の削減に貢献できる製品です。一人暮らしの方など防犯面でも利点があり、再配達を減らせることで配達ドライバーの労働環境の改善、省エネルギーにも貢献できます。



簡単に操作でき、解錠のたびに暗証番号が自動的にリセットされますので番号の漏洩を防止します。

TOPICS

オープンイノベーションを活用したプロジェクト

株式会社 A(エイス)と協業し、同社が運営するオンライン共創プラットフォーム「Wemake」を活用して「イボ竹」だけではない、新しい積水樹脂のアグリ事業を創るための新たなプロジェクトを開始しました。

アグリ事業が対象とする農業・林業などの第一次産業は大型化・自動化・省人化・IT化が進む一方で、高齢化、後継者不足など様々な課題を抱えています。約3万人の登録ユーザーから、積水樹脂グループ内だけでは得られない、生活者視点や異業種視点の多種多様な視点や知見、アイデアを提案いただくことで、農業・林業従事者に向けた安全・安心・快適な暮らしを支えるアグリ事業の新製品・新事業の創出を目指します。

